



協会概要

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

ビジョン

ブラインドサッカーを通じて **視覚障がい者と健常者が
当たり前**に混ざり合う社会を実現すること

ミッション

ブラインドサッカーに携わるものが **障害の有無にかかわらず
生きがい**を持って生きること



- 名称 : 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
(Japan Blind Football Association/JBFA)
※2010年8月1日から「日本視覚障害者サッカー協会」より改称
※公益財団法人 日本パラスポーツ協会 正会員
※ブラインドサッカーの国内統括競技団体
- 競技正式名称 : ブラインドフットボール (Blind Football)
- 競技カテゴリ : ブラインドサッカー : 全盲 (B1カテゴリ)
ロービジョンフットサル : 弱視 (B2/B3カテゴリ)
- 設立 : 2002年10月6日 / N P O 法人設立登記日 : 2015年10月27日
- 決算期 : 7月31日
- 主要役員 : 理事長 塩嶋史郎 / 副理事長 金子久子
専務理事 松崎英吾
- 主要事業部 : ブラインドサッカー男子日本代表チーム部 [18名]
ブラインドサッカー女子日本代表チーム部 [8名]
LVF日本代表チーム部[7名] / 普及部 [6名] 育成部 [20名]
医事部 [11名] / 審判部[6名] / 事業推進部 [19名]
管理部[12名] / 事業戦略部 [8名] / 広報室 [2名]
ハイパフォーマンス事務局[6名] / 独立委員会[1名]
* '23年4月1日現在のべ人数 124名 (有給スタッフ数 43名)
- 事務所 : 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 ペアーズビル3階
[TEL] 03-6908-8907 [FAX] 03-6908-8908
[WEB] www.b-soccer.jp



理事長 塩嶋 史郎

1954年生まれ、栃木県出身。アクサ生命保険株式会社入社後、全国各地の支社長、営業教育、人事研修、社員サービスなどの部署を担当。ブラインドサッカーには2005年からボランティアとして関わりはじめ、2011年より日本ブラインドサッカー協会の理事、2012年より副理事長を経て、2018年10月より現職。



専務理事 松崎 英吾

千葉県松戸市出身。国際基督教大学卒。IBSA (国際視覚障害者スポーツ連盟) 財務担当理事、一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション代表理事。

「ブラインドサッカーを通じて社会を変えたい」との思いから、日本視覚障害者サッカー協会 (現・日本ブラインドサッカー協会) の事務局長に就任。「サッカーで混ざる」をビジョンに掲げる。また、スポーツに関わる障がい者が社会で力を発揮できていない現状に疑問を抱き、障がい者雇用についても啓発を続けており、サステイナビリティがあり、事業型で非営利という新しい形のスポーツ組織を目指す。

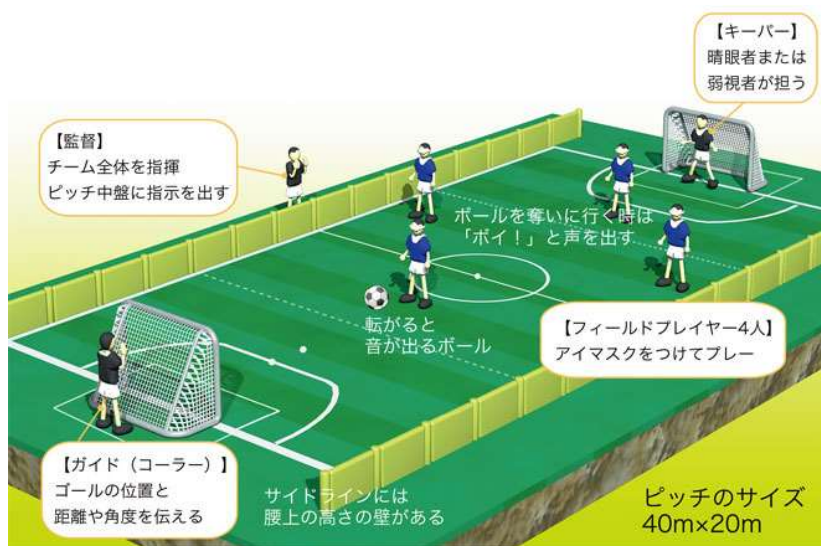
「視覚障がい者サッカー」は「見え方」に応じてルールが設計され、2つのカテゴリーがあります。

ブラインドサッカー

Blind Football

全盲カテゴリ（B1）とされ、アイマスクを装着し、転がると音の鳴るボールでプレーする5人制のサッカーです。

- ・フィールドプレイヤーはアイマスクを着用し、視力上の公正をはかります。
- ・コートはフットサルと同じ広さで20m×40m。サイドライン上に高さ1.2mのサイドフェンスが設置されます。
- ・フィールドプレイヤーは4名、ゴールキーパーが1名、加えて攻めるゴールの裏側にはガイドがいます。ゴールキーパーは晴眼者又は弱視者が務めます。ガイド、監督には条件がありません。
- ・認識をはかるため、相手プレイヤーへ向かうときは「ホイ」という声をかけます。
- ・日本国内では、フィールドプレイヤーは晴眼者でもアイマスクを装着しプレーすることができます。国際競技大会では、医療上B1(全盲から光覚：光を感じる程度の視力)と認定されたプレイヤーのみが出場できます。



「視覚障がい者サッカー」は「見え方」に応じてルールが設計され、2つのカテゴリーがあります。

ロービジョンフットサル Partially Sighted Football

「弱視（ロービジョン）者」が、一人一人異なるそれぞれの見え方を補い合いながら、声による連携を活かしプレーするフットサル。もともと「ブラインドサッカーB2/B3クラス」という名称でしたが、競技を広く知ってもらうため、そして社会的に認知度、理解度の低い弱視(ロービジョン)について知るきっかけ作りに寄与するため、2013年12月に現在の名称に変更されました。

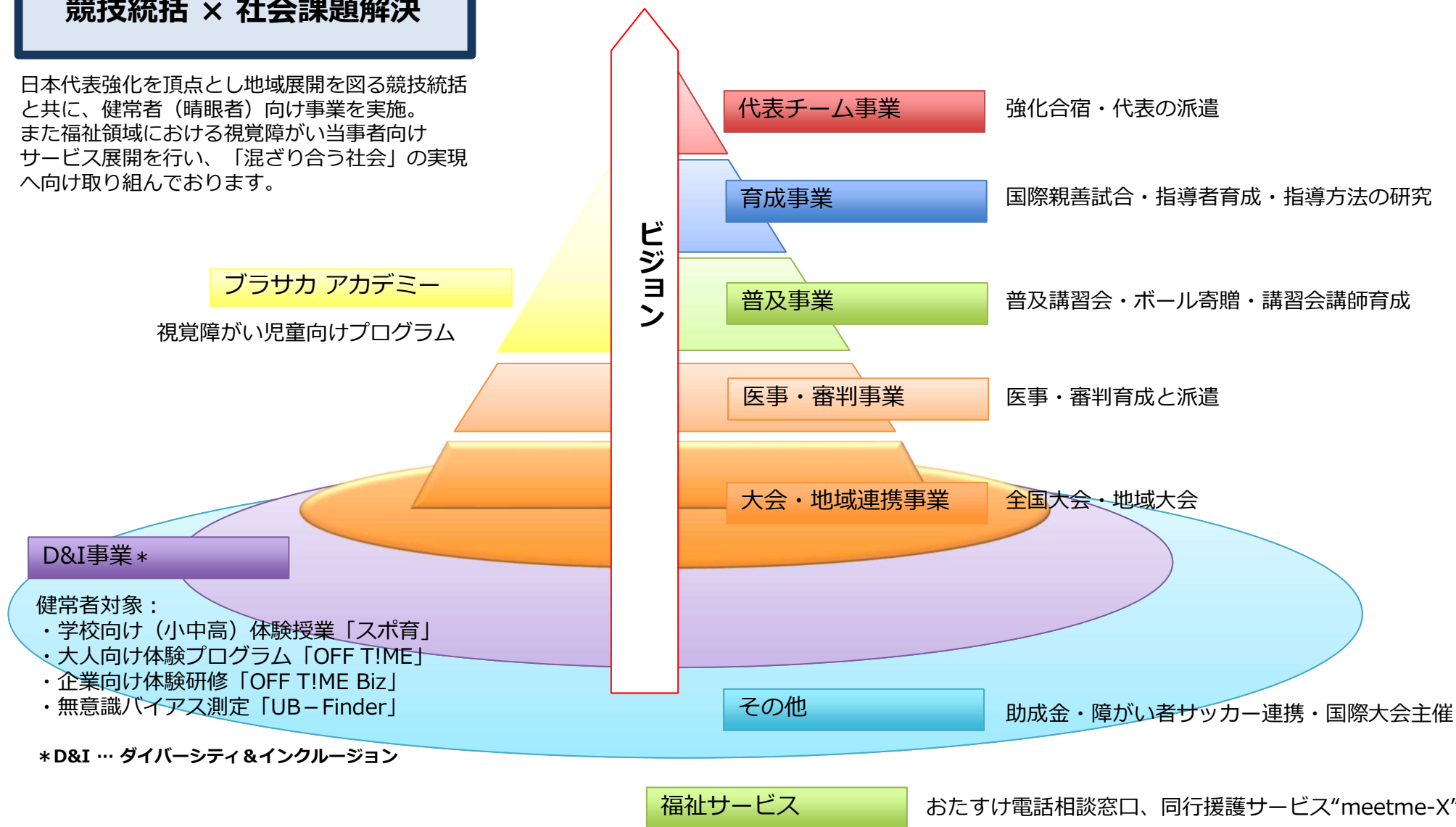
固有のルールとして以下があります。

- ・ピッチ上の選手はアイマスクを装着せず、通常のフットサルボールを使用し、サイドラインにフェンスは設置されません。
- ・フィールドプレーヤー4人のうち、最低2人はより見えにくい状態のB2クラスの選手がいなければならないこと。
- ・B3クラスの選手は腕章を装着します。
- ・ピッチやラインと区別がつく色のボールを使用します。



競技統括 × 社会課題解決

日本代表強化を頂点とし地域展開を図る競技統括と共に、健常者（晴眼者）向け事業を実施。また福祉領域における視覚障がい当事者向けサービス展開を行い、「混ざり合う社会」の実現へ向け取り組んでおります。



ファクトインフォメーション (2023年4月現在)



- 登録クラブ数：ブラインドサッカー30・ロービジョンフットサル3 ■競技人口：723名（監督、ガイド、スタッフ等を含む）※視覚障がい者：30.6%
- クラブ活動地域：北海道・青森県・宮城県・新潟県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都・山梨県・長野県・神奈川県・静岡県・石川県・愛知県・大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・島根県・山口県・福岡県・沖縄県（計22都道府県）
- 年間平均公式試合数：約70試合 ■ボランティア：登録数1,118名 ■登録審判数：50名 ■公認コーチ：104名
- 主要取引行政：東京都・品川区・葛飾区・新宿区・墨田区・町田市・さいたま市・本庄市・横浜市・平塚市・川崎市・佐倉市・成田市・浜松市 等
- 同行援護従業者研修 修了者数：75名
- 年間イベント実績

実績	学校向け スポ育		個人参加型 OFF TIME		企業団体向け OFF TIME biz		イベント等		計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
18年度	458	15,736	40	614	108	4,883	134	—	740	21,233
19年度	634	21,272	36	591	94	4,714	124	—	888	26,577
20年度	307	10,736	23	236	24	900	28	—	382	11,872
21年度	333	12,488	15	197	35	1,355	73	—	456	14,040
22年度	439	14,788	28	330	57	2,292	139	—	663	17,410



2018年度 朝日スポーツ賞受賞

スポーツの分野で優れた成績を挙げた個人または団体に贈られる賞。1929年に創設した朝日賞（体育部門）、1975年度に独立した朝日体育賞の基本精神を受け継ぎながら1989年度からは対象をプロにも広げ、「朝日スポーツ賞」としてさらに充実。朝日新聞本社内の委員会にて年間の記録などをもとに慎重に審議し、受賞者を決定。



大坂なおみ
テニスの全米オープンで日本勢初4大大会シングルス優勝



NPO法人日本ブラインドサッカー協会
視覚障がい者と健常者が協力してプレーする競技の特長を生かし「共生社会」への理解を促進
(写真：JBFA/髙部春雄)

各事業紹介



◆ 代表チーム部 | 各日本代表の強化を目的とした事業。練習会及び強化合宿の開催や国際大会への派遣などを行う。



ブラインドサッカー男子日本代表



ブラインドサッカー女子日本代表



ロービジョンフットサル日本代表



各事業紹介



◆ 普及部 | 国内のブラインドサッカーおよびロービジョンフットサルの普及を目的とした事業。盲学校や特別支援学校への講習会・用具寄贈、講師育成などを行うと共に、ブラサカ アカデミーとして各種プログラムを全国的に展開している。

◆ 育成部 | 国内のブラインドサッカーの競技者／指導者の育成を目的とした事業。アスリートパスウェイを大切にした取り組みの推進。指導方法の研究、コーチ制度の推進などを行う。



BlackRock

いっしょに、明日のこと。
Share the Future
SMBC日興証券

Santen

DAICEL

各事業紹介



◆ 大会運営グループ | ブラインドサッカーおよびロービジョンフットサルの、国内競技大会を統括をする事業。



◆ D&Iグループ | 晴眼者へのブラインドサッカーを使った体験を通じてビジョンの実現を目指す事業。小中学校向けの出張型教育授業「スポ育」、個人体験会「OFF TIME」、企業・団体向け研修「OFF TIME Biz」と、啓発イベントの実施などを行う。



パートナー企業、連携先のご紹介 (2023年10月1日現在)



JBFAパートナー



ブラインドサッカー男子日本代表スポンサー



ブラインドサッカー女子日本代表スポンサー



ロービジョンフットサル日本代表スポンサー



育成カテゴリスポンサー



アカデミーパートナー



オフィシャルサプライヤー



パートナー企業、連携先のご紹介 (2023年10月1日現在)



競技力向上パートナー



スポーツパートナー



OFF TIMEパートナー



エリア・パートナー



ソーシャルテクノロジーパートナー



日本障がい者サッカー連盟・加盟組織



サプライサービスパートナー

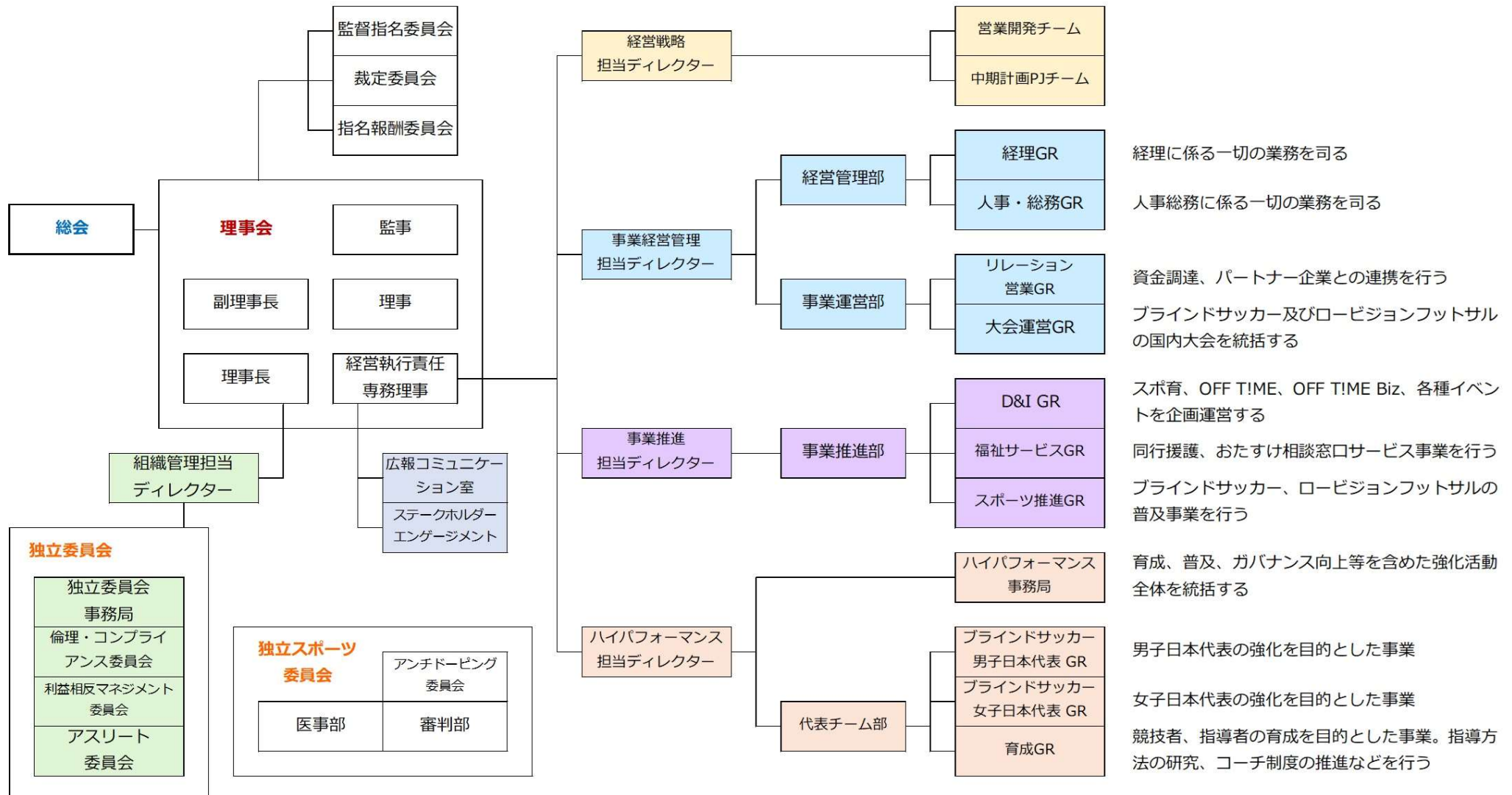


アライアンスパートナー



パートナーシップ協定





<JBFAの登録商標について>

日本ブラインドサッカー協会は「ブラインドサッカー」およびブラインドサッカーに関連する活動のブランディング及び継続的な活動のために、知的財産権、登録商標についての管理・運用を行っています。

- ・ BLIND SOCCER ブラインドサッカー（第5086068号/第5893826号）
- ・ ブラサカ（第5900887号）
- ・ スポ育（第5564500号）

* 詳細はHPをご覧ください：<https://www.b-soccer.jp/jbfa/rights>

<ご参照>

- ・ 正式名称について
ブラインドサッカーは英語表記で「Blind Football」と呼ばれます。和訳では公益財団法人日本パラスポーツ協会が「ブラインドフットボール」としています。JBFAは、「ブラインドサッカー」という呼称のブランド化に取り組んでおり、関連する呼称も含め「BLIND SOCCER」、「ブラインドサッカー」、「ブラサカ」を商標として管理・運用しています。
- ・ 「ブラインドサッカー（ブラサカ）」について
「ブラインドサッカーを応援しています」という表現、文言はJBFAパートナー及びJBFAサプライサービスパートナー企業さまのみが使用可能です。
- ・ 「スポ育」について
「スポ育を応援している」という表現、文言はスポ育パートナー企業さまのみが利用できます。
- ・ 「日本代表」について
「日本代表」はスポンサー制度となっていますので、「ブラインドサッカー男子日本代表/女子日本代表/ロービジョンフットサル日本代表を応援しています」といったメッセージの打ち出しは、男子日本代表スポンサー企業/女子日本代表スポンサー企業/ロービジョンフットサル日本代表スポンサー企業さまのみとなっています。
- ・ 「パラリンピック」の名称について
「パラリンピック」の名称は、国際パラリンピック委員会および日本パラリンピック委員会が管理する登録商標であり、許可なく用いることはできません。またウェブサイト、告知物等で「××社はパラリンピック日本代表を応援しています」等のメッセージを出すこともできません。
- ・ JBFAが派遣元とならない日本代表の国際大会について
「日本代表」が国際的な大会に出場する場合、JBFAが直接派遣元となって出場する大会が一般的です。他方で、国際パラリンピック委員会やアジアパラリンピック委員会などが統括する国際大会は、日本パラリンピック委員会（JPC）が派遣元となり、JBFAはJPCに日本代表を推薦する立場となります。そのため、スポンサーの掲出や着用するウェアの規定はJPCのものに従うこととなります。そのため、「パラリンピック」「アジアパラゲームズ」などは、JBFAとの契約の対象外となります。



'23/11 改定

'23/7 改定

'23/5 作成

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 ペアーズビル3F

TEL : 03-6908-8907



Twitter
@JBFA_b_soccer



Facebook
ブラインドサッカー
Blind Football



Instagram
@b.soccer_official



YouTube
日本ブラインドサッカー協会
公式チャンネル



LINE
@jbfa_b_soccer